



教師になりたいと思っているのは誰か？

- OECD加盟国全体では生徒の5%が教師として働くことを希望している。男女別では男子の3%、女子の6%が教師になりたいと考えている。
- 教師になりたいと思っている生徒の成績は様々だが、多くのOECD加盟国で、教師を志す生徒は教師以外の専門職に就きたいと思っている生徒より数学的リテラシーと読解力のスキルが劣る。
- PISA調査により、教師の給与が高いことと教師になりたいと思う生徒の割合の高さが関係していることがわかった。

生徒の教育的な成果を予想する上で教師の質は学校教育その他のどの要素より重要であることは繰り返し言われてきた。しかし近年多くの国が、特に科学と数学において質の高い教師の不足に悩んでいる。世界の教育システムは、達成度が高く意欲ある候補者を教員養成プログラムに呼び込むにはどうすればよいか、彼らをどのように教育すればよいか、そして教師の道を選んだ人を教職にとどめるにはどうすればよいかを模索し続けている。

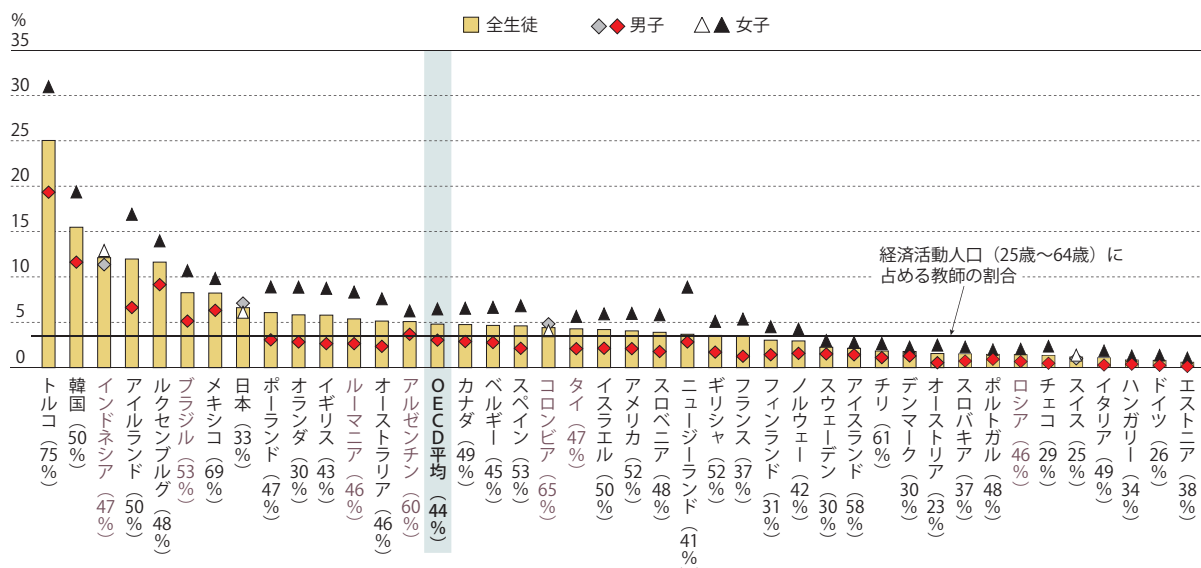
ほとんどの15歳児にとって、教師という職業は魅力的ではない。

2006年のPISA調査では、60以上の教育システムの15歳児に対し、30歳になった時にどんな職業に就いていたいのかという質問をした。それに対し、平均してOECD加盟国の生徒の約44%は専門職、特に大学の学位が必要とされる地位の高い職に就きたいと回答したが、専門職の中で教師になりたいと回答した生徒はわずか5%であった。これは平均すると地位の高い専門職を希望する生徒の10人に1人が教職を目指しているということである。

しかしながら教職を目指す生徒の割合は国によって非常に差がある。インドネシア、アイルランド、日本、韓国、ルクセンブルグ、トルコでは、教師という仕事は生徒にとって魅力ある職業である。例えばインドネシア、韓国、トルコでは専門職を目指す生徒の10人に3人が教師になりたいと考えている。対照的に、エストニア、ドイツ、ハンガリー、イタリアでは、15歳児にとって教師は特に魅力的な職業ではない。

すべての教育レベル(就学前教育から高等教育まで)において、教師と大学職員の3分の2は女性である。達成度が低く意欲の低い男子の増加に対して、学校に模範となる男性が多ければそれを改善できる可能性があることから、教職の女性化は多くの国で懸案事項となっている。幅広い生徒の性質や期待に応じるには、より多様な教員構成が望ましいだろう。そして各国が質の高い教職希望者の確保に苦戦する中で、男性を取り込むことは教師不足を改善し理想的な候補者数を拡大することにつながるだろう。

多くの生徒にとって教師はそれほど魅力的な職業ではない 教職に就きたいと考えている15歳児の男女別の割合



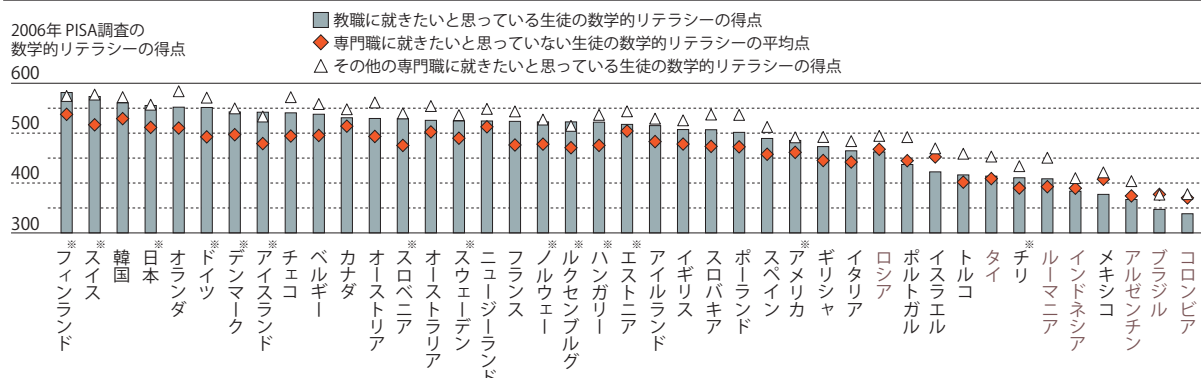
注: 灰色と白の印は、性別による統計的な有意差がないことを示す。
 国名の下のカッコ内の数字は専門職(特に大学卒業資格を必要とする地位の高い職業)に就きたいと思っている生徒の割合を示す。
 教職に就きたい15歳児の割合が多い順に左から国または地域を並べている。
 出典: OECD. PISA 2006 Database, Education at a Glance 2014: OECD Indicators.

PISA調査により、求人市場が性別で分離されているように、生徒の希望する職業にも性別の壁があることが明らかになった。女子はコンピュータや工学分野で働きたいという生徒の中では少数派だが、教師になりたい生徒の中では男子の数を上回る。OECD加盟国の平均では教職を目指す男子はわずか3%だが、一方の女子は6%である。しかしブルガリア、コロンビア、インドネシア、日本、スイスでは、教師を目指す生徒に性別による差はない。

読解力や数学的リテラシーの能力が最も高い生徒が必ずしも教師を希望しているわけではない…

フィンランド、韓国などの成績上位の国々は、成績優秀な高校卒業者を教育機関に雇い入れることで、質の高い教員集団を構築している。PISA調査により、国によって教師を目指す生徒のスキルに顕著な差があることが明らかになった。

教職に就きたいと思っている生徒は その他の専門職に就きたいと思っている生徒ほど数学が得意ではない



※教職に就きたいと思っている生徒とその他の専門職に就きたいと思っている生徒の数学的リテラシーの得点に統計的な有意差がない国を示す。
 30歳になった時に教職に就いていたいと思っている生徒の数学的リテラシーの得点が高い順に左から国または地域を並べている。
 出典: OECD. PISA 2006 Database.

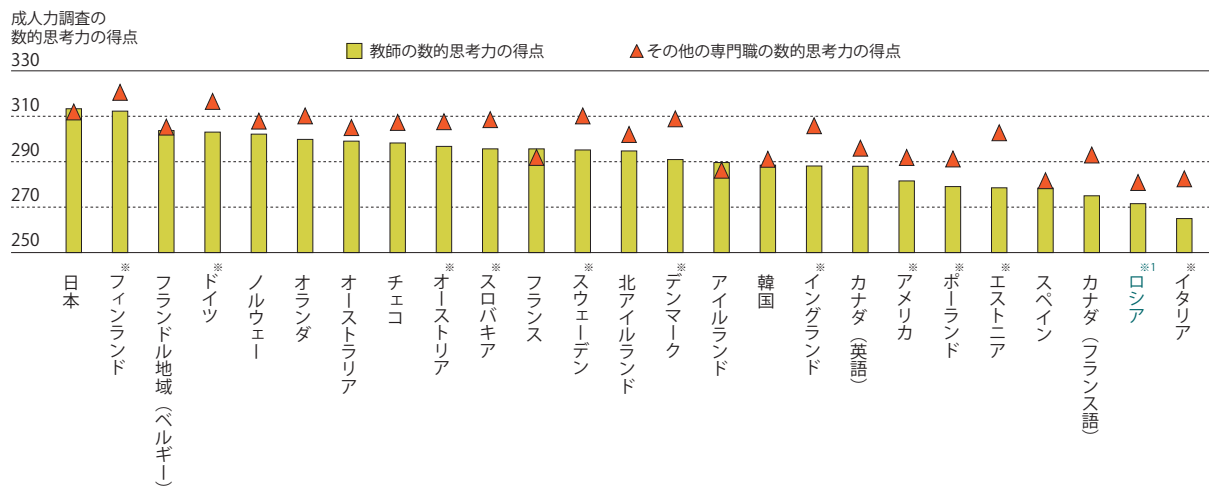


フィンランドとルクセンブルグでは、教師を希望する生徒はその他の専門職を目指す生徒より読解力の得点が高い。数学的リテラシーの平均点について、この二つのグループの差は見られない。ベルギー、カナダ、チェコ、韓国、イギリスでは読解力においては二つのグループの差はないが、数学的リテラシーにおいては教師になりたい生徒の方がその他の専門職を目指す生徒より得点が低い傾向にある。チリ、デンマーク、エストニア、ドイツ、ハンガリー、アイスランド、日本、ノルウェー、スウェーデン、スイスでは、読解力・数学的リテラシー共にこの二つのグループに差は見られない。一方、アルゼンチン、オーストラリア、イスラエル、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ポーランド、ポルトガル、トルコでは、教師になりたい生徒は読解力・数学的リテラシー共にそれ以外の専門職を希望する生徒より得点が特に低い。

…そして教師は特に高い数学の知識を必要としない。

教師を目指す15歳児の数学的リテラシーの得点は、教師として働いている成人の読解力、特に数的思考力のデータと非常に近い。多くの国で、教師はその他の専門職に就いている人より読解力、特に数的思考力が低い。しかしベルギー（フランドル地域）、フランス、アイルランド、日本、韓国では状況は異なる。日本の教師は、国際成人力調査（OECDが実施する成人のスキル調査。PIAAC）に参加したすべての国の教師の中で最も数的思考力が高いだけでなく、さらに国内の他の専門職に就いている成人と比較しても数的思考力が高い。

教師の数的思考力は教師に就きたいと思っている15歳児の数的思考力を反映している



※教師とその他の専門職に就いている人の得点に統計的な有意差がある国を示す。

1. ロシアのデータにロシア市域の人口は含まれない。よってデータに反映されているのは16歳から65歳の全ロシア在住者ではなくモスクワ市域の人口を除いたロシアの人口である。ロシア及びその他の国の詳細な情報は [Technical Report of the Survey of Adult Skills](#) を参照。

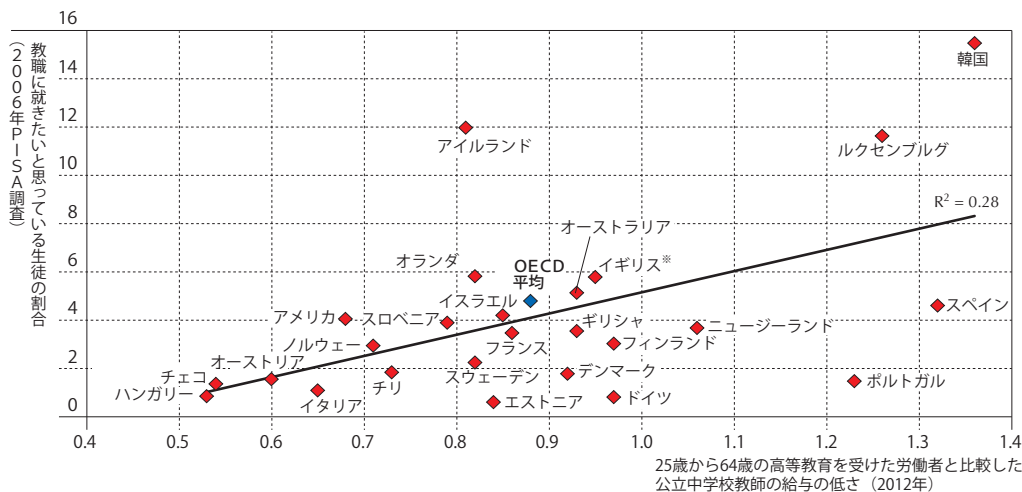
出典: OECD. PIAAC Database.

各国は、より多くの男性とよりスキルの高い成人を教職に取り込む必要がある。

各国における教師になりたいと思う生徒の割合と彼らの成績の国による差は、教師への憧れや教職の社会的な価値の違いを示唆している。ほとんどの国で優秀な人材を確保するための競争は激化している。つまり達成度の高い生徒は、幅広い職業機会の中から選択することができるのだ。OECD加盟国の平均では、小学校の教師の給与は、高等教育を受け、教師以外の専門職にフルタイムで就いている成人（医学や工学などの平均以上の給与を得ている専門職及び看護などの平均以下の給与を得ている専門職など、高等教育の卒業資格を要するすべての専門職を含む）の給与の85%である。同じ基準に対して中学校の教師は88%、高等学校の教師は92%の給与を得ている。学校システムは、教師以外の専門職



生徒が教職を選ぶ際に給与条件が影響する



※生徒の希望職種と高等教育を受けたフルタイムの労働者の給与についてはイギリスのデータを使用。教師の給与についてはイングランドのデータを使用。
 Education at a Glance 2014: OECD Indicators, Table D3.2を参照。
 出典: OECD. PISA 2006 Database, Education at a Glance 2014: OECD Indicators.

の人々が得ているのと同等の給与や労働環境を提供し、そして（または）教師の自主性を高め教職の地位向上に努めることなしに、高いスキルと意欲を持った人材を雇用し、質の高い教師陣を形成することはできない。十代の生徒は教師の給与を正確には知らないだろうが、彼らは社会が教師をどの程度評価しているか、そして一般に社会的な地位が給与に反映されるということは熟知している。

結論:教育システムは、高いスキルと意欲を持った教師の雇用、そして教職を継続させることに、より競争力を持たなくてはならない。給与や報酬といった付随的な利益がその助けとなる一方で、教師の仕事に対する自主性をより高めさせ、専門職としての社会的地位を向上させることで教師の本質的な価値を高めることを検討するべきである。

本稿に関するお問合せ先

担当: Seong Won Han (seongwon@buffalo.edu) or Francesca Borgonovi (Francesca.BORGONOVI@oecd.org)

Seong Won Han developed material for this PISA In Focus as part of her [Thomas J. Alexander Fellowship](#) in the Directorate for Education and Skills at the OECD.

出典: [OECD \(2014\). Education at a Glance 2014: OECD Indicators. OECD Publishing, Paris.](#)

[OECD \(2014\), TALIS 2013 Results: An International Perspective on Teaching and Learning, TALIS, OECD Publishing, Paris.](#)

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

[Adults in Focus](#)

[Education Indicators in Focus](#)

[Teaching in Focus](#)

次回テーマ:

学校以外で生徒がインターネットに費やす時間は考慮すべきことか?

Photo credits: ©khoa vu/Flickr/Getty Images ©Shutterstock/Kzenon ©Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and the arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

The statistical data for Israel are supplied by and under the responsibility of the relevant Israeli authorities. The use of such data by the OECD is without prejudice to the status of the Golan Heights, East Jerusalem and Israeli settlements in the West Bank under the terms of international law.